

## 7番（小川義昭君）

次に、茶室「松任安楽庵」の現状と改修についてお伺いいたします。

この茶室は、東京松任会の顧問である旧松任・徳光町出身の福田彰氏により、東京紀尾井町の料亭福田屋の改築に伴って本市に寄贈された茶室、安楽庵であります。明治24年ごろ、藪内流の関西茶道会の重鎮として活躍した野村證券の創始者、野村徳七氏が所有していたものを福田屋の先代が譲り受け、紀尾井町に移築されたと伝わっています。昭和20年代の料亭福田屋の常連には、湯川秀樹、高村光太郎、川端康成、暁烏敏、林屋亀次郎、千宗室、北大路魯山人などのそうそうたる人物がおり、こうした偉人たちが茶会を楽しんだ由緒からしても、本市第一級の文化財であることは間違いありません。

しかしながら、最近聞き及んだところでは、平成10年に玄関から続くかつての待合室を改修した結果、今ではほぼ廊下に近い造作となり、お茶会において必要な待合スペースが欠如した状態となっているようであります。

本市がゆかりある方から譲り受けた文化財的な茶室に再度息を吹き込むためにも、玄関に接する場所に、それも本来の外観を損ねない形で待合室を新設するなどの手だてを考えてはいかがでしょうか。御見解をお伺いしたいと存じます。